

特集 障がい者の就業

地域密着型サービス事業所 常盤では、6月17日から28日までの10日間、豊橋市立くすのき特別支常盤での実習について、インタビューさせていただきました。

Q. 常盤までどのように通っていますか？

A. 自転車で20分ぐらい掛けて通っています。学校へはバスと徒歩で通っています。自転車は小学校以来乗っていませんでしたが、常盤への実習のため1ヵ月ぐらい練習をしました。自転車は寮の物を借りています。

Q. 実習では何をしていますか？

A. お話し相手や掃除、食器などを洗うことをしています。お話し相手では、昔のことをお話しされる方が多く、お話の幅を広げるため歴史などを勉強しています。



Q. 実習中に大変なことはありますか？

A. 初めて認知症の方とお話をして、最初何を話していいのか、どのように話しかけていいのかかわからずに苦労しました。ただ、職員の方から認知症の方とのコミュニケーションは、言葉だけではなく、「しぐさ」や「表情」などを観察することが重要ですよ、と教えていただきました。また、掃除や食器洗いなどの手順を忘れてしまうこともあり苦労しています。実習中に困ったことは職員の方に相談をしています。あと、報連相をしっかりとできるようにしています。私は、分からないことを、そのままにしてしまうことが多いので、必ず職員の方に相談や報告をするように心がけています。



Q. 常盤を選んだ理由は何ですか？

A. 福祉の分野に興味があったので、選びました。

子どもさんは苦手なので、高齢者の方に興味がありました。仕事なのでいろいろなことがありますが、今回の実習も楽しく実習をさせていただいています。将来このような職場に就職をしたいと考えています。

就労支援について

障害福祉サービス事業所 明日香

明日香では、一般就労を目指している方の支援を行い、明日香グループホームでは、一般就労されている方の支援を行っています。

明日香グループホームでは18名の方が一般就労されており、就労先は福祉村の各施設や福祉村病院、クリーニング工場などのさわらびグループの他一般企業へ就職されている方も多くいます。もともと在宅から一般就労されていた方やあかね荘に入居されていた方が自立を目指しホームへ入居し、生活をしながら仕事へ行っています。

皆さん、自力で企業へ通い、一生懸命仕事をされています。ただ、課題も多く、障がい特性から、仕事を無断で欠勤してしまったり、対人面や金銭面でのトラブルを起こしてしまうこともあり、その都度、適切な支援が必要です。

明日香では、障害者自立支援法が施行された2008年に就労移行支援事業として2年間、就労の訓練を行ってきました。この期間で8名の方が一般企業へ就職をし、現在も継続して働いています。一部の方に関しては一般企業から就労継続支援A型(雇用型)の施設へ移行された方もいますが、皆さん一生懸命仕事に取り組まれています。明日香では、現在、就労継続B型として、就業訓練を行っています。まだまだ課題が多く、就労を希望される利用者様の中には、実習に出るものの、挨拶や返事ができなかつたり、対人関係でトラブルがあったりすることもあり、チャンスはありましたが、就職できない方もいました。障がい者の法定雇用率が2.0%から2018年4月に2.2%へ引き上げられました。障がい者の働く場も増えています。明日香および明日香グループホームともに今後も利用者様の就労支援もしっかりと行っていき、少しでも多くの利用者様が就職できるようにしていきたいと思えます。(安田 葉子)



さわらびグループでは、福祉村病院をはじめ珠藻荘、さわらび荘などの施設で障がい者の方が就労をしています。できることを行いながら、「みんなの力で、みんなの幸せを」実現するための一員として日々頑張っています。

さわらびグループでの就労

福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね

私は平成14年4月からしろがねで就労しております。昭和から平成へ年号が替わってさほど経っていない平成2年11月の終わりに交通事故によって車いすの生活になりました。

そんな私がなぜしろがねで就労することになったかといいますと、当時、静岡県にある身体障害者更生施設を退所(5年間在籍)し、三河一宮にある障害者職業訓練校を修了(1年間在籍)してイオン豊橋南店(当時ジャスコ豊橋南店)で就労していた頃に現在、珠藻荘で就労している田中さんと車いすバスケットボールチーム三河ジャガーズのチームメイトがきっかけで事務員としてしろがねを紹介してもらいました。入社した平成14年は人事異動があり、現在のしろがねの施設長の石黒さんと一緒にしろがねにやってきました。

しろがねでの仕事は事務員として介護給付費の請求や施設会計、労務業務を主にやっています。長い期間、同じ場所で就労が出来るのは周りの環境が良いことと自分の努力の結果だと自信を持っています。(近沢 貴幸)



福祉村病院

医療法人さわらび会の障がい者の方の就労支援の一つを紹介させていただきます。

さわらびグループの明日香ホーム(グループホーム)から福祉村病院に環境整備員として就労している方が3名います。平日9時～16時までの勤務で、担当場所の清掃作業をしています。任された仕事をきちんと取り組み、休むことなく働いています。

一人の方は勤続年数が19年。まさに、さわらび会の理念に基づき、自立した生活を送ることができている証だと思います。(大島 弓佳)

障害者支援施設 あかね荘

あかね荘には15年以上生活指導員として働いている男性がいます。この方は「入所更生施設」だったあかね荘を卒業後、一般企業へ就労し週末はボランティアとしてあかね荘で活動されていましたが、卒業生だからこそ「利用者の尊厳を守っていきたい」という強い気持ちがあり、平成15年にあかね荘に入社し、現在は生活支援員として働いています。利用者様の生活を支える仕事が好きで精力的に働いていますが、「利用者の皆さんが高齢になり、支援をどうしたらいいかわからない時がある。」と支援員としての悩みを相談される事もあります。

こんな真面目で一生懸命な性格を活かせる様に私たちスタッフがおこなっている事は、一つは分かりやすい業務にすること。時間・作業内容・作業量等を明確にすることです。

二つ目はコミュニケーションをしっかりとることです。仕事や私生活で悩みを抱えていても、相談することが苦手です。悩みがあれば、業務に集中できない可能性があります。普段のコミュニケーションの中から、変化に気づき声をかけていくことが大切だと考えています。この方の他にも3名の方があかね荘で就労しています。それぞれの特性を生かし十分に力を発揮できるようサポートしてゆきます。(主任生活支援員 ● 高橋 奈奈)